



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2025年6月8日(日) 9:30~12:00(曇り)

参加者 一般:4名

指導員:4名

テーマ 初夏の昆虫

梅雨入り前の曇り空(暑さ控えめ)の下、虫と花を観察して回りました。

チュウゴクアミガサハゴロモの幼虫がノアザミの茎に集まっています。白い口吻物質でできた繊細な衣をまとっているの、よく目立ちます。指を近づけると、避けるように茎の裏側に回り込みます。

センダンやシンジュの枝には、昨年成虫が出現したシタバニハゴロモの幼虫がいました。黒地に白い斑点があり、ちょっと見た感じは甲虫のようです。成虫までには、地色が赤の幼虫に変化します。

また、シンジュの幹の地上1m程の所には、シンジュキノカワガの昨年出た蛹の抜け殻がたくさん残っていました。保護色で見つけにくいのですが、随所のシンジュの幹にありました。

シモツケの花では、ヒメウラナミジャノメとルリシジミが蜜を吸っていました。このシモツケは同じ株で白とピンクの花を付けていました。紅白の花をつける株はハナモモなどでは見たことがありますが、シモツケでは初めて気づきました。

川原では、ここに多いカワラマツバの花盛りで、カワラサイコは咲き始めといった状態でした。嬉しいことに、昨年、ここで見つけた準絶滅危惧(NT)のミソコウシュが、花と実を付けていました。

堤防の法面ではネジバナの花茎を伸ばしていました。草刈られた後で目立ちます。よく見ると花の列のねじれは右巻きのものとは左巻きのもので共存しています。植物のツルには種ごとに右巻きか左巻きが決まっていますが、ネジバナの花の並び方は両方があるようです。

大野極楽寺公園の池の周りではハンゲショウが花の近くの葉をよく目立つように白く変化させていました。葉が花弁に進化する過程を示しているようですね。葉をちぎるとドクダミに似た匂いがし、ドクダミ科であることを思い出させてくれます。

(報告:齋竹)

<その他観察できたもの>

鳥:ツバメ、キジバト、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、シジュウカラ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、オオヨシキリ(声)、ウグイス(声)、ホトトギス(声)、キビタキ(声)、メジロ(声)、キジ(声)

虫:ナミアゲハ、モンシロチョウ、モンキチョウ、キタキチョウ、ツバメシジミ、ベニシジミ、ヒメジャノメ、アカマエアオリンガ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ショウジョウトンボ、ナミテントウ、シロテンハナムグリ、コイチャコガネ、オオヒラタシテムシ、キマワリ、キマダラカメムシ

花:タイサンボク、キンシバイ、コゴメバオトギリ、マンテマ、イヌコモチナデシコ、ノミノツツリ、ヒナキキョウソウ、ヒナギキョウ、カナビキソウ、ノアザミ、オオキンケイギク、ヒメジョオン、ハルジオン、フタナ、ヒメフタナ、ニガナ、チチコグサ、コウソリナ、ナヨクサフジ、クスダマツメクサ、シロツメクサ、コマツヨイグサ、ミナトマツヨイグサ、ユウゲショウ、ニワゼキショウ、オオニワゼキショウ、オオカワヂシャ、モクゲンジ、ヤブニッケイ

実:マグワ、センダン、オニグルミ、ホウチャクソウ、ベニバスモモ



(川原でカナビキソウなどを観察)



シタバニハゴロモの幼虫



吸蜜中のルリシジミ



紅白のシモツケの花



ねじれ方が異なるネジバナ